

日向市総合体育館整備事業に係る設計施工者選定

公募型プロポーザル審査結果報告書

令和5年8月

日向市総合体育館整備事業者審査委員会

1 プロポーザルの実施目的

設計・施工一括発注方式による日向市総合体育館の設計、施工及び工事監理業務等を実施する設計施工者を決定するにあたり、総合体育館に対する市民の意見を踏まえて、発注者が求める機能や諸条件を満たす高度かつ専門的な能力を有する者を選定するため、実績や技術提案、提案価格などを総合的に評価し、最優秀提案者及び次点提案者を選定することを目的として、公募型プロポーザル方式を採用しました。

2 審査体制

選定にあたっては、専門的見地からの考察に加え、公平性・透明性を確保するため、学識経験者等で構成する「日向市総合体育館整備事業者審査委員会」（以下、「委員会」という。）を設置しました。

3 委員会委員

	氏名	役職等
委員長	熊野 稔	国立大学法人 宮崎大学 地域資源創成学部 教授
副委員長	米田 史彦	一般社団法人 宮崎県バスケットボール協会 専務理事
委員	杉本 弘文	独立行政法人 国立高等専門学校機構 都城工業高等専門学校 准教授
	(日高 章司) 黒木 升男	日向市 総務部長 ※ () は令和4年度
	古谷 政幸	日向市 建設部長

4 委員会経過

委員会	開催日	内容
第1回	令和4年 12月22日(木)	・設計施工者選定方針について
第2回	令和5年 2月13日(月)	・選定方針及び評価基準について
第3回	3月23日(木)	・選定方針及び評価基準の決定について ・公告資料について
第4回	7月12日(水)	・審査方法について ・技術提案及びVE提案について
第5回	7月20日(木)	・プレゼンテーション及びヒアリングについて ・最優秀提案者と次点提案者の選定について

5 プロポーザル参加者

3者

6 審査内容

(1) 実績審査 (配点 8 点)

実績審査は、参加者及び本業務予定技術者等の実績を評価するため、評価基準に基づき事務局が定量評価を行い、その結果について委員会へ報告がありました。

(2) 技術提案審査 (配点 8 2 点)

技術提案審査は、評価基準に基づき業務全般、地域貢献、設計業務及び施工業務の分類ごとに参加者が技術提案し、委員との対面によるプレゼンテーション及びヒアリングを実施して、提案内容を委員会の各委員が評価しました。

業務全般に関しては、業務実施方針と体制、品質管理手法、コスト管理手法、工程管理手法の 4 つの提案項目、地域貢献に関しては、日向市内企業等に直接発注する金額提案、貢献する取組等の提案の 2 つ提案項目、設計業務に関しては、設計コンセプト、外観計画、ユニバーサルデザイン、内部空間計画、災害対策、環境配慮の 6 つの提案項目、施工業務に関しては、隣接する他施設利用者の安全や周辺住環境への影響を考慮した工事施工計画の提案項目について、項目ごとに評価しました。

(3) 価格審査 (配点 1 0 点)

価格審査は、評価基準に基づき提案見積価格^(※1)から事務局が定量評価を行い、その結果について委員会へ報告がありました。

※1 提案見積価格の算出

技術提案の評価点確定後、技術提案見積書を開封し技術提案額を確認し、その後、VE 提案のうち、委員会による審査結果において、採用となった VE 項目の金額を技術提案額から差し引いて算出。

7 各参加者の評価点

区 分		配点	番号 1	番号 2	番号 3
実績審査	参加者	4.0 点	4.0 点	4.0 点	4.0 点
	技術者	4.0 点	4.0 点	4.0 点	4.0 点
技術提案 審査	業務全般	27.0 点	20.3 点	20.2 点	15.6 点
	地域貢献	10.0 点	6.3 点	4.5 点	8.2 点
	設計業務	35.0 点	28.4 点	23.8 点	18.4 点
	施工業務	10.0 点	7.0 点	7.0 点	5.6 点
価格審査		10.0 点	1.3 点	2.2 点	8.3 点
評価点合計		100.0 点	71.3 点	65.7 点	64.1 点

技術提案評価の評価点は、各委員の評価点を分類ごとに平均して算出
提案上限価格は、3,730,000,000 円 (消費税及び地方消費税含む。)

8 審査結果

番号	区分	参加者名
1	最優秀提案者	五洋・あさひ産業・三郎建設・環境デザイン ・アーク計画設計 特定建設工事共同企業体
2	次点提案者	前田・坂下・辰・内藤 特定建設工事共同企業体
3		非公開

9 審査講評

最優秀提案者となった「五洋・あさひ産業・三郎建設・環境デザイン・アーク計画設計特定建設工事共同企業体」は、周辺環境や基本計画の内容をよく理解した上で各提案項目に対して優れた提案をされました。

具体的には、来訪者に優しいアプローチ動線計画等、高齢者やパラスポーツを含め全ての人々が利用しやすいユニバーサルデザインや、プレーヤーファーストな内部空間計画、交流が生まれるコミュニティホールの配置計画等が優れていました。

次点提案者は、評価点の合計では最優秀提案者に及びませんでしたでしたが、同様に本内容を理解され、体育館内部から外部を一体利用とするパークアリーナとする提案は、特徴的で優れた提案内容でありました。

今回、各提案者につきましては、デザインビルド方式の意図を理解された上で、非常にレベルの高いご提案をいただきました。貴重な時間を費やし真摯に努力いただいた上で本プロポーザルに参加いただきました各提案者に対し、心より感謝申し上げます。

結びに、日向市が目指す基本コンセプトに基づき、市民の誰もが安心して楽しく利用でき笑顔があふれる体育館となるよう切に願います。

令和5年8月18日
日向市総合体育館整備事業者審査委員会
委員長 熊野 稔